

11月20日(日)



冬の鍋対決



あんこう鍋

博多のもつ鍋

朝晩冷え込み、いよいよ鍋シーズン到来。私自身お鍋は大好きで毎日食べた... (Text continues with a testimonial about winter pot)

パック 1,000円(税込)

さむい、鍋の季節になって来ましたね。私寒いのは大嫌いです。鍋を食べて温まらします。 (Text continues with a testimonial about the benefits of pot)

パック 1,580円(税込)

# 『あの頃の庄原中学校の模型が…』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史

私が通った保育所も小学校も中学校も跡形もない。ちょっと寂しい。ちょっとだけ。

森信先生に、お茶でもしませんかと前々から話していた。この日の昼下がり、11月とも思えぬほどに暖かく、いい天気だったので先生に電話、お茶をすることになった。私だけではと思い、同級生ふたりに声をかけた。

先生、坐るなり、手に持たれていた封書から写真を取りだされた。「これ見てみんさい。すごいよ」3人、写真を手に取り、回し見る。「すごいですね！」

それが、下の写真。ここでは、予算の都合上、白黒だが、見たのはカラー。

そう、私たち世代の庄原中学校。今の庄原小学校のところにあった、あの庄原中学校。

あったあった、テニスコートが2面。こちらが正門だが、私は正門から入ったことはおろか、この辺を、ごそごそ、することもなかった。

向かって右側の家庭科教室に上がる外階段のところを通り、テニスコート横の入り口から入った。

1年の時は、その入り口の所に下駄箱があり、その二階。1年B組だった。担任は堀江先生(ホリケン)。英語と体育の先生。2年は、向かって左側、同じく二階。2年A組。英語の津村先生が担任。3年生になると一階に下りて3年C組。美術の佐々木先生だった。

森信先生は、広島で私立の女子校の教員をされたあと、結婚で庄原に。あらためて採用試験を受けられて庄原中学校に赴任。その時の一年生が私たち。男子生徒は初めて。元氣盛りの私たち。先生も20代。授業風景が想像できるだろう。美人先生だった。理科を教えていただいた。私は理科は苦手だった。

テニスコートを見て思い出した。好きだった女の子は二人ともテニス部だった。もちろん時間差がある。二人とも彼がいた。せつない思い出だ。

校舎の真ん中に校長室や教員室があり、その左側に音楽室や理科室があったような、いや、理科室は家庭科教室の下だったか。50年も経つと曖昧だ。

左側にある講堂へは、簀板を引いた渡り廊下で繋がっていた。

テニス部以外は、正面玄関の反対側の大きなグラウンドでクラブ活動をしていた。野球部、陸上部、あのころは、バレー部もバスケット部も屋外だった。講堂では卓球部、剣道部、柔道部、体操部。私は野球部だったので、講堂のクラブ活動は、まったく記憶の外。たしか、私の学年には、剣道部も柔道部もいなかったのじゃないか。この写真を見ながら、50年以上も前の話の花が咲く。

それはいいのだが、森信先生が続けられる。

この模型を作ったのは、庄原の市内7校が統合され、庄原中学校が庄原教場と呼ばれた最後の学年の教え子なのだとか。私たちの3級下の昭和30年生まれ。名前は土岡さん。今は、札幌に住まれている。

そこまでなら、「ああ、そうですか」で終わるのだが土岡さんは、なんと庄原中学校には2年しか在籍していないのだという。

お父さんが警察官。竹原に生れ、すぐに尾道、府中(備後)と引っ越し、小学校入学は観音小学校、3年生で宇品東小学校、そして、6年生で庄原小学校に転入と、めまぐるしく学校を変わられ、中学校も3年の時、牛田中学校に転校。両親が魚屋で、生れてこの方、庄原以外に住んだことのない私からすれば信じられない子供時代だ。友だちができたと思ったら、また次へ。そりゃあ大変だ。

昔を振り返る時間ができた今、たった2年間しかいなかった庄原中学校の模型を造ろうと思いついたのはなぜなのか。転校を続ける中で、心ない言葉もかけられたそう。そんな中で、のどかな庄原の風土、そして田舎ならではのおっとりした友だちが土岡さんの心に入ったのだろう。森信先生への感謝の思いも大きいのもかもしれない。そういう先生だから。

この模型は250分の1。作るにあたって教育委員会の皆さんにも協力していただいたそう。より精密なものが出来た。

来年オープンする新しい市民会館の中にある庄原自治振興区に展示していただければなと思ってるがどうだろう。

できれば、私が通っていた庄原保育所、庄原小学校も、誰か作ってもらえないかと……。

最後に、土岡さんは庄原中学校の2年間で柔道3段まで取ったのだとか。頑張り屋なんだろう。



統合前の庄原中学校

2022年11月20日